記者説明会資料

オーブン機能付電子レンジのカラ焼き等により小鳥が死亡
－対策を講じた上で出荷するようメーカーに要望－

2008 年 5 月 8 日
独立行政法人国民生活センター

オーブン機能付電子レンジとは、電子レンジにオーブンレンジ機能の付いたタイプの調理用電気製品であり、広く一般に販売されている。

PIO-NET（全国消費生活情報ネットワーク・システム）に「新しく購入したオーブン機能付電子レンジを使用したところ、飼っていたインコ 2 羽が死亡した」との苦情が寄せられた。この他、同様の苦情が 1 件発生している。小鳥の死亡原因の特定は難しいが、苦情の状況等からカラ焼き時または初回使用時に何らかの有害なガスが発生した可能性が考えられる。

カラ焼きは、オーブン機能付電子レンジを初めて使用する際に庫内に付着している油を焼き切ったり、脱臭させるために行うものであり、消費者にカラ焼きを行うよう取扱説明書に記載しているメーカーが多い。

古来、小鳥は毒ガス検知として用いられることが多く、人間を“先導”してきた。人間に悪影響を与えないということが明らかにされていないにもかかわらず、カラ焼きを消費者に行うよう求めているメーカーの姿勢は問題である。消費者に危険を負担させるのではなく、メーカー側でカラ焼きを行った上で出荷すれば、消費者が使用する際に何らかの有害なガスが発生する可能性は低くなると考えられる。

国民生活センターが代表的な複数のメーカーにヒアリングしたところ、消費者にカラ焼きを行うよう求めているメーカーが多数を占める一方、不要としているメーカーがあることなどがわかった。そこで、事故の未然防止・拡大防止のため、メーカー側で対策を講じた上で出荷するよう、業界への要望を行う。

１.寄せられた苦情の概要

【事例１】

2007 年 12 月下旬、新しくオーブン機能付電子レンジを購入した。カラ焼き後、1 日置いてから初めてオーブン機能を使用したところ、飼っていたインコ 2 羽が死んだ。インコが死んだ原因もはっきりせず、怖くてオーブン機能付電子レンジを使用できない。

（メーカー：東芝ホームアプライアンス（株）、
事故発生年月：2007 年 12 月、相談者：47 歳　女性、埼玉県）

【事例２】

オーブン機能付電子レンジを 2 年前に購入した。電子レンジ機能は使用していたが、購入後使っていなかったオーブン機能を使用したところ、調理中に異臭が立ち込め、飼育中のインコの 1 羽が死亡、もう 1 羽は動物病院に入院となった（後に死亡）。インコの入院費用を支払ってほしい。

（メーカー：東芝ホームアプライアンス（株)、

事故発生年月：2002 年 1 月、相談者：43 歳　女性、神奈川県）

その他、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）にも同様の事故情報がホームページに掲載されている。

【NITE ホームページ掲載事例】

電子レンジの空焼き運転後、グラタンを加熱していたところ近傍の小鳥（インコ）が死んだ。なお、リビングでは、電子レンジとガスファンヒーターを同時に使用していた。

（メーカー：シャープ（株)、事故発生年月：1997 年 1 月）

２．メーカーへのヒアリング結果

当センターがオーブン機能付電子レンジを販売している代表的な複数のメーカーにヒアリングしたところ、①メーカー側で対策を講じているため、消費者のカラ焼きは不要とするメーカー（松下電器産業)、②工場でカラ焼きを行った上で出荷しているが、再度消費者にカラ焼きを求めているメーカー（日立アプライアンス、三菱電機)、③工場ではカラ焼きを行わず、消費者にカラ焼きを求めているメーカー（三洋電機、シャープ、東芝ホームアプライアンス）があり、メーカーにより大きな違いが見受けられた。

また、消費者にカラ焼きを行うよう求めている各メーカーについて、取扱説明書のカラ焼きに関する記載内容を比較した。その結果、①「小鳥などの小動物は別の部屋に移し、換気のために窓を開けてください」等とやや具体的に記載するメーカー（シャープ、東芝ホームアプライアンス)、②「カラ焼き中は煙やにおいが出ることがあるため、必ず換気をしてください」等と単に換気を求める記載だけのメーカー（三洋電機、三菱電機)、③換気をするよう求める記載のないメーカー（日立アプライアンス）があり、記載内容にもばらつきが見られた（調査結果表は別添参照)。

３．問題点

消費者基本法第 5 条には、事業者は消費者の安全を確保することが責務として規定されており、メーカーが可能な限り安全な状態で消費者に商品を供給することは当然であるが、カラ焼きに着目してヒアリングした結果ではメーカー間に大きな違いが見られた。

苦情の状況等からカラ焼き時または初回使用時に何らかの有害なガスが発生した可能性が考えられる以上、カラ焼きを消費者に行うよう求めているメーカーの姿勢には問題がある。メーカーにおいては、小鳥が死亡した原因が何だったのか、それは人間、特に乳幼児に悪影響を与える可能性はないのか等を調査し、安全性を向上させるべきである。

４．業界（(社）日本電機工業会）への要望

有害なガスの発生する可能性のあるカラ焼きを消費者に行うよう求めるのではなく、メーカー側で対策を講じた上で消費者に供給すべきである。当センターのヒアリング調査によると、各社対応にばらつきが見受けられるため、業界として統一されたい。

また、小鳥がどういった原因で死亡したのか等、調査を実施し、事故の未然防止・拡大防止を図られたい。

５．消費者へのアドバイス

カラ焼き時など、調理を行う際には換気を良くし、小鳥などの小動物は別の部屋に移すこと。

別　添　オーブン機能付電子レンジを販売しているメーカーへの調査結果表

	①小鳥等が死ぬ事案を把握しているか？	②取扱説明書等にカラ焼きを求める旨の記載を行っているか？行っている場合、その理由は何か？	③なぜメーカーではなく、消費者がカラ焼きをするのか？	④取扱説明書の記載内容（一部抜粋）
三洋電機（株）	把握していない。	記載している。 庫内や構造部品（断熱材等）、ヒーター等に付着した油を焼き、脱臭させるため。	今までカラ焼きに関する問題発生もなく、また工場でカラ焼きを行うことにより、生産性の悪化や設備投資も必要となり、商品のコストアップにもつながる。できるだけ安価で商品を提供するために、消費者にカラ焼きをお願いしている。	「カラ焼き中は煙やにおいが出ることがあるため、必ず換気をしてください。」
シャープ（株） 2位（25%）	1997年1月に発生（NITEに掲載されている事例）。それ以降は把握していない。	記載している。 その理由は、オーブン（鋼板）加工時に付着するプレスオイルなどを焼き切るため。	においの原因であるオーブン加工時に付着したオイルは、洗浄工程で除去しているが、においについては個人差もあるため、カラ焼きをお願いしている。	「必ず部屋の窓を全開するか、換気扇を回しておこなってください。煙やにおいに敏感な小鳥などは、別の部屋に移しておきましょう。」
東芝ホームアプライアンス（株） 3位（19%）	1～2件/年　把握している。	記載している。 製品に使用しているプレス部品等に残留している油などが原因で、初度加熱時ににおいが発生することがあるため、初回に焼き切る様、カラ焼きを消費者へお願いしている。	部品での油の除去等の対応はしているが、製品として完全には除去しきれないため、消費者へカラ焼きをお願いしている。	「小鳥などの小動物は別の部屋に移し、換気のために窓を開けてください。」

日立アプライアンス（株）4位(9%)	原因は不明なるも過去に1件あった。	記載している。 工場で性能検査時にカラ焼き通電を全数行なっているが、におい等を気にする消費者もいるため、使用前にカラ焼きをお願いしている。	工場でカラ焼きを実施しているが、におい等を気にする消費者もいるため使用前にカラ焼きをお願いしている。	「空焼きの加熱中や終了後しばらくは、本体（ドア、キャビネット、加熱室とその周辺）にふれない。（やけどの恐れ）」
松下電器産業(株) 1位(29%)	2002年2月に1件発生。それ以降は把握していない。	カラ焼きは不要のため、取扱説明書等には一切記載していない。	－	－
三菱電機（株）5位(9%)	把握していない。	記載している。 ヒーター加熱時の気になるにおいを抑えるため、最初に庫内の油を焼き切る必要がある。	オーブンレンジを開発した当初から出来上がった製品を全数カラ焼きしている。しかし、完全に取りきれないため、消費者にもう一度カラ焼きをしてもらう。	「煙やにおいが出ますが、故障ではありません。窓を開けるか、換気扇を回してください。」

（＊）メーカー名の下にある順位等は、2006年度の電子レンジにおけるシェアをあらわす。

出典：「東洋経済統計月報」第68巻第1号　2008年1月号